

本朝大仏師正統系図并末流(一部抜粋) 京都市 金光寺蔵

①定朝(じょうちょう)?~1057

康尚の弟子あるいは子。平等院鳳凰堂の阿弥陀如来坐像を永承7年(1052)に造立。定朝仏は「仏の本様」と讃えられた。

②運慶(うんけい)?~1223

康慶の子。快慶と共に鎌倉時代を代表する仏師。男性的で豪快な点に特色がある。

③快慶(かいけい)?~?

康慶の弟子。流麗な作風の仏像を造り、安阿弥(あんなみ)様式と呼ばれる。

④康雲(こううん)?~?

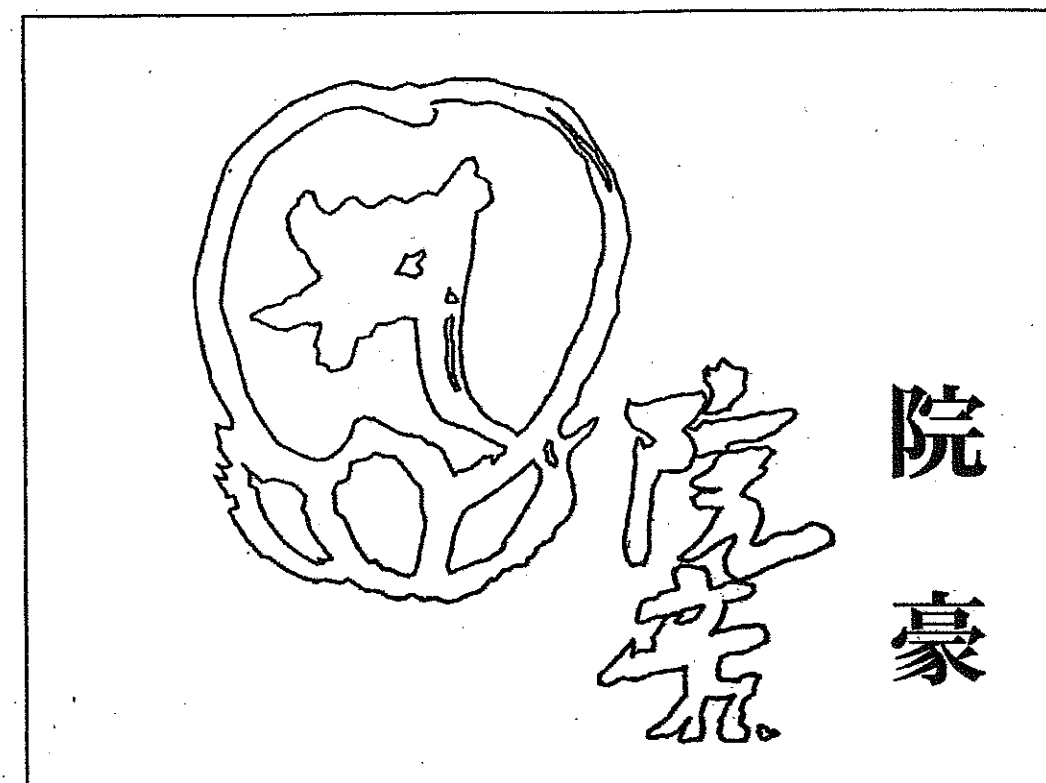
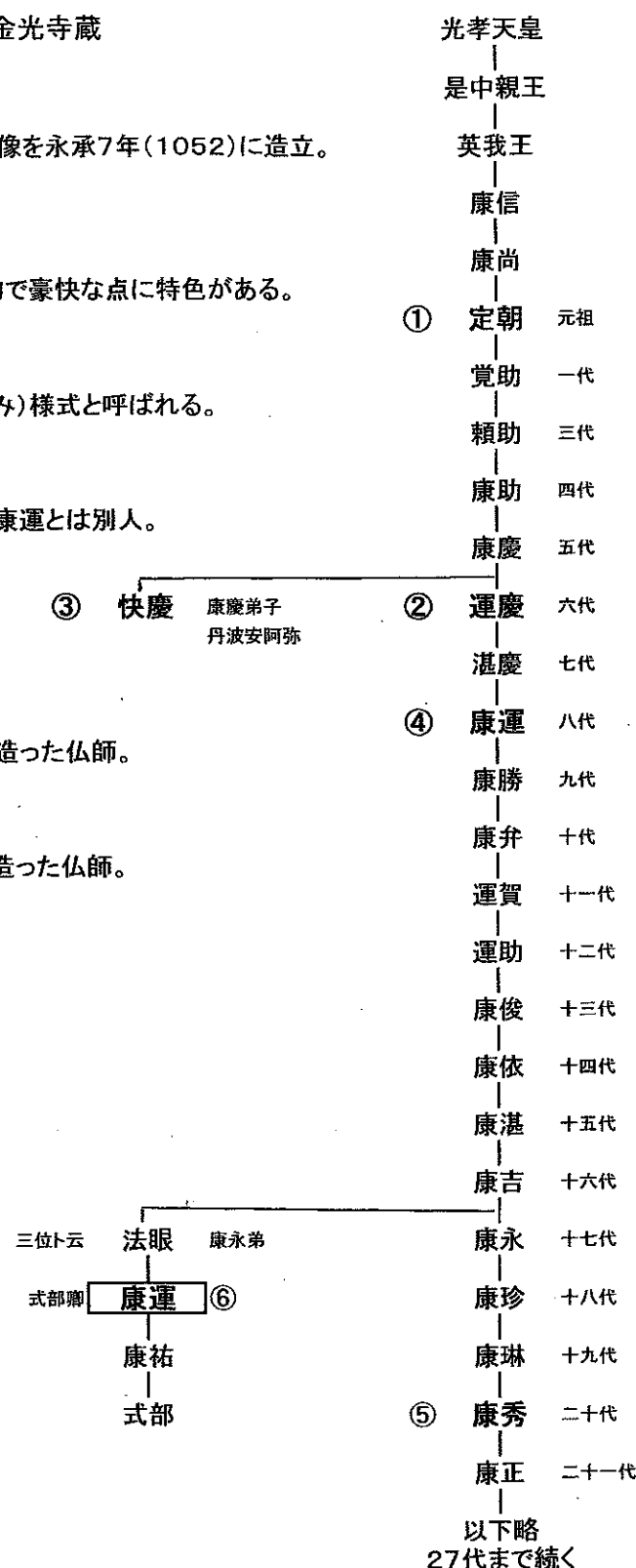
運慶の二男。定慶と改名したとも言われる。報恩寺像の康運とは別人。

⑤康秀(こうしゅう)

天文8年(1539)に奥出雲町岩屋寺旧蔵の四天王像を造った仏師。

⑥康運(こううん)

天文7年(1538)に玉湯町報恩寺蔵の十一面観音像を造った仏師。



(一行目)
南無阿弥陀仏 観世音大勢至一切
三寶(花押)

(二行目)
阿善房

(三行目)
南無阿弥陀仏一切生皆成仏道施主
造仏師往生極楽

(四行目)
文永七年二月九日記之法眼院豪弟
子院快

(五行目)
院静院弥造之

天文7年 (1538)

○四月八日 尼子経久らを檀那として十一面観音像が製作される。

875 木像十一面観音立像墨書銘 (松江市玉湯町報恩寺所)

△造像銘記集成一三三七

蔵)

奉□供養長□

半仏尊像十一面

観音本願□

因郎右衛門

住寺□□房

檀那佐々木尼子

伊予守源経久同

民部□□久

湯信濃守久長

大西兵庫助久忠

東次郎右衛門尉久連

仏師□□久□

都七条運慶子孫

大仏師式部卿法印

康運作日本第一之

愚息
龜□□
同作

熊野権現同作也

天文七年戊卯月八日

○四月一〇日 尼子詮久と海蔵寺惟高妙安への書状が作成される。

876 鹿苑日録天文七年四月一〇日条

△鹿苑日録

十日。赴長得之斎。々々了踏法堂。々々了於当院入麵侑湯。於昭堂習三返了。祈祷百座稜嚴咒。々々了晚炊酒三返。文楚西堂甲利十利兩帖天竜侍衣兆首座請取之。官資十二貫文請取之。内八緡雲州江使節雲叔悦首座渡之。四貫文預り置也。予へ之礼ハ不取。蔭涼二緡。侍衣壹緡二ケ渡之。尼子方へ状案。態令啓候。抑被運治世之筹之段。大慶至候。就其当院領処々。就中作州英多檜原之事頼存候。仍百疋進入候。表祝儀候。委細海蔵寺可有演説候。恐々謹言。

卯月五日

法霖判

尼子民部少輔殿幕下

海蔵寺惟玄要首座へ状案。

態差下彦蔵主。自当寺并当院尼子民部少輔殿江以書状